

第5回 長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会 議事概要

- 1 日 時 令和8年2月9日(月) 13時 00分～14時 30分
- 2 会 場 太白区役所5階ホール
- 3 出席者
委員：岩渕光明氏(伊藤善健委員の代理)、遠藤源太郎委員、柿沼敏万委員、加藤隆委員、
小島博仁委員、小林利一委員、鈴木有希子委員、富田勲委員、不破正仁委員、
堀内祥弘委員、三浦孝行委員、水谷哲也委員、脇田淳委員
※柴山隆委員、泊尚志委員は欠席
オブザーバー：山下茜氏
コーディネーター：氏家滉一氏
太白区(事務局)：太白区長、まちづくり推進部長、長町地域活性化推進室長、
長町地域活性化推進室 船水主査、木皿主査、小澤主事
- 4 次第・資料
 - 1 開 会
 - 2 挨拶
・仙台市太白区長 浅野 吉昌
 - 3 議 事
・令和7年度賑わい創出社会実験の結果について【資料1】
・各ワーキンググループでの議論の経過【資料2】
・基本計画(中間案)について【資料3】
・今後の進め方について【資料4】
 - 4 閉 会

1 開会

2 挨拶

<太白区長より挨拶>

3 議事

<事務局より資料1に基づき説明>

不破座長：

- 資料1について、委員の皆様から意見・質問はあるか。

柿沼委員：

- 長町駅西口広場とリップルロードでそれぞれ企画を実施していたが、商店街への回遊性はどうかだったのか。

事務局：

- 来訪者・通行者のアンケート調査結果(P15)より、一定程度の回遊が確認できたと考えている。
- 歩行者通行量の調査結果(P10～11)では、ゼビオアリーナ仙台でイベントがあった場合には旧国道4号にも影響が見られた。今後、ゼビオアリーナ仙台や杜の広場との回遊性も考えていきたい。

不破座長：

- リップルロードは非常に重要な場所だと思う。公共空間の機能強化(P18)により、リップルロードと長町駅西口広場が更に機能すれば、その2つを結ぶ旧国道4号を改めて考え直すきっかけ

けになると思う。

小島委員：

- 社会実験を何回かやることで、地域の関心を高めていくことができると思う。今後の社会実験の見通しを教えてください。
- 賑わいの指標として、今後の社会実験を実施する場合は、携帯のビッグデータを活用した滞在時間の分析も検討してはどうか。

事務局：

- 地域のエリアマネジメント団体と連携し、引き続き公共空間での社会実験を検討していきたい。
- 社会実験の調査の方法等は今後検討していきたい。

<事務局より資料 2～4 に基づき説明>

不破座長：

- 資料2の各ワーキンググループの議論の経過について、ワーキンググループの座長から補足をお願いします。

堀内委員（利活用ワーキンググループ座長）：

- 利活用ワーキンググループでは、プランに位置付けられている実践メニューや街並み活用戦略、将来イメージについて議論を重ねてきた。そうした議論の内容がプランに反映されていて、方向性がより明確になっていると感じる。

事務局（泊委員（交通ワーキンググループ座長）コメント代読）：

- 交通ワーキンググループでは、交通シミュレーションによる分析などを踏まえ、交通状況の改善に向けた様々なアイデアが幅広く議論されたことにより、実現できる可能性を具体的に感じられた。
- 長町商店街エリアをより過ごしやすい空間にしていくための公共交通の活用方法については、まだ十分に議論しきれていない課題がある。

不破座長：

- 議論を繰り返しながら良い方向に進んでいると思う。
- 資料3について、皆様から一言ずつ意見をいただきたい。

岩淵委員代理：

- 道路空間再整備の取組みについて、車線減少は宮沢橋開通後の交通状況を見ながら、慎重に進めていくべきだと思う。
- 交通ワーキンググループ座長のコメントにもあった通り、公共交通の活用も整理して進めてほしい。

遠藤委員：

- 本事業の目的は、長町地域全体のために長町商店街エリアの魅力の向上を図ることと、旧国道4号における歩行者・自転車の安全を確保することの2つであった。できることから取り組むという姿勢で、目的達成に向けて皆さまと意見交換しながら、引き続き取り組んでいきたい。

柿沼委員：

- 地域の日常的な生活に影響があるのか、長町が将来どのように変わっていくのかが気になるところ。地域からは、どう変わっていくのか心配という声もあるため、将来像がより分かるようにプランで示してほしい。

不破座長：

- 日常的な生活が変わるかどうかは大変重要な視点である。生活が良い方向に変わっていくことを、さまざまな機会を通じて発信する必要がある。

加藤委員：

- 社会実験を通して、新たな団体と関わることができた。その中で、公共空間の機能強化の必要性が確認され、プランの取組みに位置付けることができたと思っている。
- イベントに頼らない日常的な賑わいづくりを考えていきたい。

小島委員：

- P10 のリード文は「長町の街並みづくりに当たっては、～」よりも「目指すまちの姿を実現するために、～」の方が分かりやすいと思う。
- 公共空間の機能強化(P18)で、長町駅西口広場・長町駅前プラザは集客性が高く期待も大きいと、記載の表現は非常に良い。「公園利用者の利便性向上に向けた協定及び許可制度等」とは、都市公園リノベーション協定のことか。

事務局：

- 公園を更に利活用し、より進化させていくための手段として、国の制度である都市利便増進協定や都市公園リノベーション協定等を活用するという趣旨である。

小島委員：

- 道路空間再整備(P19～22)は、社会実験や交通シミュレーション等で車線減少が難しいということが分かったようだが、目標を取り下げないで様々な取組みを進めることになっている点について大変評価している。
- 戦略の主なターゲット(P24)に、太白区内外のファミリー世帯だけでなく、あすと長町の若い新しい世代も含まれることがわかる表現に工夫してほしい。
- P27 の絵に 89ERS のフラッグが描かれているが、屋外広告物をまちづくりに積極的に活用する姿勢をプランにも明記してほしい。

小林委員：

- 長町地域をどのように盛り上げるかについて、消費者目線でスピード感をもって進めてほしい。

鈴木委員：

- 歩いて楽しいというテーマで、社会実験をさらに実施していくと思っていたので、不完全燃焼だと感じている。
- 交流という表現があったが、親子だけでなく、商店と親子のつながりをより強く感じられるまちを目指したい。

脇田委員：

- 昨年度の道路空間社会実験ではバスの運行に影響があった。今年度の社会実験では交通規制がなくても賑わいを創出できたとのことで、やり方次第で十分に可能性があると感じた。
- バス事業の現状として、朝夕は一定程度の利用はあるが、日中の利用が低迷しているという課題がある。こうした取組みを通して課題が少しでも改善されればと思う。

水谷委員：

- 公共交通の取組みとして、バスとの連動を考えていかなければいけないと思う。
- 長町は駐車場が多いので、駐車場の利活用も考えてほしい。
- 道路空間再整備の車線減少については、交通量の減少を待っているだけではなく、ある程度の交通制限など強制力も必要だと思う。

三浦委員：

- 市営バス事業については、運転手不足等の課題があり、利用者のデータを分析し、バス路線の再編を検討していく予定である。長町が魅力的な場所になっていけば、データにも変化として表れてくると思う。注視していきたい。

堀内委員：

- 商店街は加盟店数の減少や空き店舗の増加、駐車場の問題など、衰退傾向が見られる。商店街としては100年に1度の機会だと思っているため、引き続き官民連携で協力をお願いしたい。
- 来年度、エリアマネジメント会社の設立も予定されているため、スピード感をもって少しずつ変化を積み重ねていきたい。

富田委員：

- 昨年度の社会実験やその後を踏まえても、大きな反対意見や苦情は聞こえてこないため、方向性は良いと思っている。
- 来年度の4月から自転車の罰則規定が変わる。歩行の安全対策で歩行者と自転車の動線分離を掲げているが、まちづくりと自転車安全対策を同時に進めるモデルケースにもなり得ると考えており、大いに期待している。

山下氏：

- 戦略の絵は具体的な場所がイメージできてすごく良いと感じた。
- P31について、道路空間再整備は戦略とも関係してくるので、その点が明示されると良いと思った。

氏家氏：

- 社会実験を通して利活用できる場所が広がってきている。民間の方からも社会実験等の提案をし、積極的に仕掛けていきたい。

不破座長：

- 皆さまのご意見より、プランの概ねの方向性は良いと感じた。細かな文章の表現や検討事項については私に一任させていただきたい。

4 閉 会